

第2回医療・病床懇話会の概要(中河内二次医療圏)

1 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)・病床機能分化の方向性等について

- 将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングしていくことについて、認識の共有を図った。
- 病床機能分化にあたり、高度急性期、急性期、回復期、慢性期それぞれの定義を明確にしていかなければいけないか。
- 中河内二次医療圏において求められている政策医療は何か、認識の共有を図ることが必要ではないか。その上で、公立病院と民間病院のそれぞれの役割から、病床機能分担について議論していくことが必要ではないか。

2 病院の将来プラン等※について

(1) 保健医療協議会においてプラン等の内容について説明を希望する病院

市立柏原病院

(理由：中河内二次医療圏における政策医療の役割について認識の共有を図るため、来年度に計画されている回復期病床への転換に対する理由の説明を求める。)

(2) その他、病院のプラン等に対する意見・質問等

特になし

※公的医療機関等 2025 プラン、新公立病院改革プランにかかる補足調査、将来に向けた病院のプランに関する調査